

新型コロナ流行、熱中症、豪雨…テクニカル分析では早くも「弱気相場」入り（中西文行）

8/2 日刊ゲンダイ



【経済ニュースの核心】

厚生労働省による新型コロナウイルスの全国の感染状況を見ると、7月21日までの1週間に患者数は前の週から1万2262人増えて6万7334人となった。1つの医療機関当たりの平均患者数は13.62人で前の週の1.22倍で11週連続で増加した。

厚生労働省は「増加傾向が続いていて、これまでもお盆明けが感染拡大のピークだったことを踏まえると、今後も感染者が増えることが見込まれる」とした。記録的な酷暑で外出を控える人も多いのに異常な増え方である。復活した訪日外国人の増加と関係があるのだろうか。

新型コロナのオミクロン株の変異種「KP.3」は感染力が強いという。知人の都心マンションでは、ほとんど寝たきりの妻と介護する夫（ともに80代）の2人暮らしの妻が感染、緊急入院した。そのお宅の訪問者は、ケアマネジャー、ヘルパーなど介護職員しかいないという。

ところで、4月1日以降のコロナワクチン定期接種対象者の接種費用の自己負担額は、ワクチン価格が1万1600円で医師の手技料を含めると接種1回当たり1万5300円程度になる。ただ、国は接種1回当たり8300円を助成金として自治体に交付、定期接種の自己負担額は最大およそ7000円になる。

総務省消防庁発表の「全国の熱中症による救急搬送状況 7月15～21日（速報値）」によれば、同期間の熱中症での救急搬送状況は全国で9078人と高い水準で推移している。

搬送者の55.7%を「65歳以上の高齢者」が占める。入院不要な軽症者が7割弱だが、死亡者6人、重症者（3週間以上の入院）157人と高齢者は警戒が必要。発生場所を見ると、住居37.2%と自宅にいても危険である。

コロナの感染予防のため、マスク着用は効果的だが、マスクは暑い。クールビズも意味をなさないような暑さで、通勤電車でも黒いリュックを背負うサラリーマンが激減している。

■10%以上下落

このような世情を反映してか、日経平均株価（終値）は、7月11日の史上最高値4万2426円の「強気相場」から、7月26日に3万7667円と高値から10%以上下落した。テクニカル分析では早くも「弱気相場」に転換を示した。ホリデーシーズンのパリオリンピック。投資家やファンドマネジャーは夏休みで、利益確定売りを急いだのかも知れない。

フランスでは、テロへの警戒感が高まり緊張状態のオリンピックである。コロナ、熱中症、さらに国内で多発する豪雨など自然災害……要警戒の真夏到来である。

（中西文行／「ロータス投資研究所」代表）

8/2アメリカのダウ平均株価が500ドル近く下げたことを受け、日経平均株価が一時2000円以上大幅に値下がりした。節目の3万7000円を割り込み、3万6000円台前半で推移している。